

研究計画 (R6年度)

1 研究主題

学習意欲を高め、読解力の向上を目指す指導法の工夫

～国語科の文学教材を中心とした、読解力を高める授業づくりの実践～

2 主題設定の理由

本校は、一昨年度から、「わかる」「できる」喜びを実感する学習活動の充実を目指し、まずは、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得できるよう、授業改善に取り組んできた。その結果、自力解決に向け、考えようとする姿勢は育ってきた。さらに、計算力や漢字力など繰り返しの練習で習得できる学習の力もついてきた。一方で、学力に課題がある児童が多く、基礎学力が定着していないことから、それを活用したり、考えを深めたりするまでに至らなかった。特に、国語科の「読むこと」「書くこと」の領域に課題があり、書かれている内容をきちんと捉えきれていないために、自分の考えがもてず、目的に応じた文章が書けないことが考えられた。そのため、当該学年までの学習が定着していない児童は普通の授業の理解が難しく、学習に対する成功体験が少ない。また、自己肯定感や学習意欲が低いことも課題となっている。

そこで、昨年度の課題を踏まえた上で、本年度の研究主題を「学習意欲を高め、読解力の向上を目指す指導法の工夫」とした。基礎学力を確実に身につけるためには、系統を意識した学習指導を行い、基礎基本の反復学習、及びインプットからアウトプットまでの一連の学習活動の流れを心がける必要がある。児童は、学んだことが使えるようになれば、児童の主体的に学習に向かう力も身につくのではないかと考えた。

読解力の向上を実現するため、研究の核となる部分を国語科の文学教材に限定し、「読むこと」に焦点化した。本校の課題として挙がっている、国語科の「読むこと」「書くこと」は、問題文や資料を正確に読み取ったり、自分の考えや条件に沿って文章を構成したりすることであるが、この力は、どの教科の学習でも必要とされるものである。また、学力の高い低いに関わらず、学んだことが日々の学習や生活に生かせるようになれば、児童にとって学習は楽しいものとなる。それを支えるために、学ぶ意味や理由が感じられる課題を設定し、導入と発問に工夫を加え、新しいことへの不安を取り除きながら、どの子もわかる・できる喜びが感じられる授業が大切であると考えた。これらが実現されたときに、児童の学習意欲が高まり、読解力の向上につながると考えた。以下、具体的な取り組みを研究内容に示す。

3 研究内容

●取組の充実

- ①「読むこと」「書くこと」を意識した指導（特に、「読むこと」の指導に重点をおく）
- ②学ぶ意味や理由が感じられる課題設定、導入と発問の工夫
- ③新しいことへの不安を取り除き、どの子も安心して活動できる授業
- ④わかる・できる喜びが感じられる授業

●指導の工夫

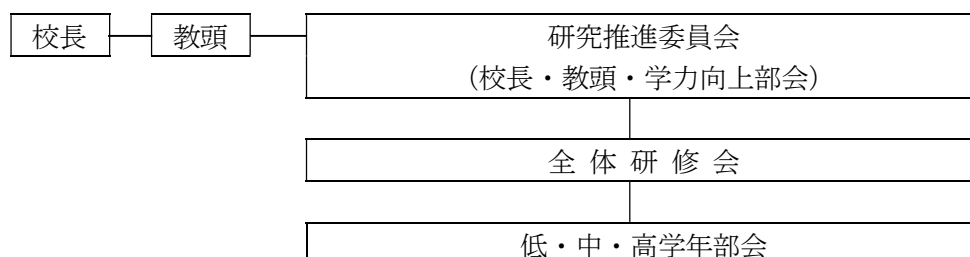
- ①「読むこと」「書くこと」を意識した指導
 - ・読書や音読等、活字に触れる時間の確保（さわやかタイムの充実）
 - ・文章や資料から読み取ったことをまとめる活動（インプット）
 - ・文章や資料を読んで理解したことに基づき、目的や意図に応じて自分の考えを書く活動（アウトプット）
 - ・ICT 機器を効果的に活用する（アウトプット）
 - ・ゴールを明確に示した学習活動
- ②学ぶ意味や理由が感じられる課題設定、導入と発問の工夫
 - ・児童にとって身近に感じられるものからの課題設定
 - ・当該学年までの学習を生かせるような課題設定
 - ・子どもが追究したくなる課題設定（多様な考えを引き出せる課題など）
- ③新しいことへの不安を取り除き、どの子も安心して活動できる授業
 - ・学び合いの素地をつくる（自他を認め合う学級作りや話し合いスキルの獲得）
 - ・見通しをもてるような授業の工夫

- ・考える視点を明確にする発問や指示の工夫
- ・子ども同士で協力して解決できる課題設定、学習形態の工夫（個人・ペア・3～4人程度のグループ学習）
- ・自力解決時における個別指導の工夫
- ・ことばを大切に授業づくり（話す・聞く・つなげる・辞書の活用・ことばの仲間分け等）

④わかる・できる喜びが感じられる授業

- ・ノート指導の工夫（自分の考えを記述する）
- ・個に応じた支援の充実
- ・子ども同士をつなぐ授業、学習形態の工夫（個人・ペア・3～4人程度のグループ学習）
- ・1時間での学びの成果が実感できるたしかめ問題の工夫や個人の記録（授業記録）
- ・教師が適切な場が出る（しゃべりすぎない・子どもからの発言を待つ→意見をつなげる）
- ・評価テストや到達度調査、学習アンケートの分析による指導方法の改善

4 研究組織



5 研究方法

(1) 年間計画

月	内 容	月	内 容
4	教育計画の立案 全体研修（研究方法の確認・三部会からの提案） 全国学力学習状況調査の実施（6年）	10	自主勉強に向けて（1年） 県学習到達度調査の実施（4・5年） 学校訪問（3年）
5	学力補充開始（3年～6年）	11	学習アンケート調査および分析② 研究授業（6年）
6	研究授業（2年） 公開授業（おおぞら） 学習アンケート調査および分析①	12	県学習到達度調査の分析（4・5年） 研究授業（1年）
7	研究授業（4年）	1	CRTの実施（全学年） 全体研修（反省と課題） 公開授業（音楽・家庭専科）
8	夏季研修（三部会からの中間報告）	2	全体研修（学力分析・研究の成果と課題） CRTの結果からの学力補充 評価テスト（5年）
9	研究授業（5年） 公開授業（理科専科）	3	研修（三部会からの報告・成果と課題） 研修のまとめ作成

(2) 研修方法

- ①研究授業や公開授業を実施するとともに、実践交流を行う。
- ②研究会や講習会に参加し、伝達し合う。
- ③学年部会で授業改善に向けて話し合い、教材研究を行う。

(3) その他

- ①部会別研究会と全体研修会を関連づけて行う。
- ②研究の手立てについては、研究推進委員会で企画する。